

体育系大学における中学校ダンス必修化に 対応したダンス指導法授業の検討

—ダンス指導法授業を受講した学生の意識の変容を通して—

A study of the dance instruction method in the college of
physical education, corresponding to dance becoming a
compulsory subject in junior high schools :

Through transformation of the consciousness of the students
who attended “instruction method of dance”

宮本 乙女¹⁾ 中村 恭子²⁾

Otome MIYAMOTO and Kyoko NAKAMURA

Abstract

The purpose of this study is to indicate what and how we should teach in dance instruction method class through analysis of transformation of the evaluation of the class and dance image. The subject we treated in this paper assumed what is suggested for junior high and high schools' PE class, based on a course of study, and incorporated trainings and theories to raise both abilities to teach and do dance. The participants are the students of Dance Studies Major with much experience and knowledge of dance and students of Sports Sciences Major class who have less experience. As the class went on, the students of both classes strengthened the image of dance as “free,” “momentum,” “easy,” and “enjoyable for both men and women.” They recognized dance as an important subject to teach in junior high and high schools. And they came to have a consciousness to be able to teach how to dance. There was a big change in Sports Sciences Major class than Dance Studies Major class; they deepened their understanding of dance, and increased positive image of dance. Both classes' students were able to actively join the class in cooperation with each other. However, in the first half of the class, they did not feel a consciousness for their learning outcome very much. We want to modify the curriculum to let them realize learning outcome more, so that they can increase ability to both teach and do dance.

Keywords : instruction method of the dance, compulsory, transformation of the consciousness, college of physical education

I. はじめに

1. 中学校の保健体育科におけるダンス学習の 変遷と現状

戦後の教育制度の中で、中学校では「男子は武道(格技)、女子はダンス」と男女の学習する領域が異なるように位置づけられてきた。表1はダンスと、武道に着目して、近年の変遷をまとめたものである。1989年の学習指導要領改訂により、男女ともに、ダンス・武道の学習ができるようになったが、必修ではなく武道とダンスどちらかの選択であったため、男子に武道、女

子にダンスを履修させる学校が多く、実態が大きく変わることはなかった。

2009年に中村が東京都の全公立中学校を対象として行った調査¹⁾によれば、男女に関わらず履修が可能となって20年近くたっても、依然として男子のダンス履修率は10%程度であった。しかし、2012年より完全実施の学習指導要領で中学校1・2年生においてダンス、武道ともに必修となり、2013年に行った1府3県の公立中学校を対象とした調査¹⁾によると、2014年度の授業計画ではほとんどの学校が必修でダンスを計画していた。同調査によると、ダンス指導法研修・教材研究実施の状況は「実施している」が約20%、「しているが不十分」が約60%であり研修自体は進んでいるが不十

1) 日本女子体育大学(准教授)

2) 順天堂大学(准教授)

表1 近年の中学校学習指導要領 保健体育科編の変遷（文部科学省学習指導要領より宮本作表）⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾

告示/施行年	1969/1972年	1977/1981年	1989/1993年	1998/2002年	2008/2012年
内容	A体操 B器械運動 C陸上競技 D水泳 E格技（男子） F球技 Gダンス（女子）	A体操 B個人的スポーツ C集团的スポーツ D格技（主として男子） Eダンス（主として女子） F体育に関する知識	A体操 B器械運動 C陸上競技 D水泳 E球技 F武道 Gダンス H体育に関する知識	A体操 B器械運動 C陸上競技 D水泳 E球技 F武道 Gダンス H体育に関する知識	A体操 B器械運動 C陸上競技 D水泳 E球技 F武道 Gダンス H体育に関する知識
内容の取り扱い	注) いくつかの種目の例示には、男女別の記載が見られる。 例 倒立歩行：男子 平均台：女子 長距離走：男子は2,000m程度、女子は1,000m程度 サッカー：男子	AからEまでは各学年適切に配当する。Fについては主として1年2年で履修。Dは主として男子に履修、Eは主として女子に履修させるものとする。	【1年】ABCDE必修 FGから1つ選択 Hについては主として1年2年で履修 【2年】A必修 BCDから2つ選択 EFGから2つ選択 【3年】A必修 BCDから1又は2つ選択 EFGから2つ選択	【1年】ABCDEH必修 FGから1つ選択 【2年3年】AH必修 BCDから1又は2つ選択 EFGから2つ選択	【1年～2年】ABCDEFGH必修 GH必修 AHは2学年に渡り必修 【3年】AH必修 BCDGから1以上選択 EFから1以上選択
備考	格技（武道）とダンスについては、それぞれ男子が学ぶ、女子が学ぶものとなっていた。		男女別の枠がなくなったが、武道とダンスが選択種目扱いであったため、ほとんどの学校で、男子は武道、女子はダンスと、学校が選択しており、男女の履修の差は改善されないうまま。		全ての種目が必修になったが、ダンス履修体験を持つ男性教員が少ないため指導が困難。

分であり、「これからする予定・したいができない」と答えている教員も各県10%前後で、全体としてダンスの指導に十分な自信を持って臨んでいない状況が推察できる。

例えば、現代的なリズムのダンスは学習指導要領解説に「既存の振り付けなどを模倣することに重点があるのではなく、変化とまとまりをつけて全身で自由に続けて踊ることを強調することが大切である」⁹⁾とあるが、指導経験の少ない教員による授業では、ヒップホップダンス（ストリートダンス）の既存作品の映像を与えて定形の踊り方習得学習として扱っている事例が少なくないと報告されている¹⁰⁾。ダンスの学習内容と指導方法について、教員の理解が十分でないことが原因と考えられる。

以上のような背景から、保健体育科の教職課程を有する大学におけるダンス指導法の授業は、学生自身の踊る・作る力に加えて教育現場で即活用できる内容であるように期待されていると考えられる。

ところで、中学校ダンスの男女必修化開始前後にあたる2010年より2014年までの、日本体育学会大会の体育科教育学分科会における研究発表演題436題の演題を調査したところ¹⁶⁾¹⁷⁾¹⁸⁾¹⁹⁾²⁰⁾、中学校、高等学校、大学

のダンス教育（幼児、小学校に焦点を当てた授業は除く）に関する研究は、39演題であり、その内、中学校・高等学校の学習指導現場を対象とした研究が18、大学のダンスを対象としたものは17であった。その中でダンス指導法の内容などを対象とした研究は、中村（2011）「教員養成課程におけるダンスの学習内容・目標評価と種目採択意欲の関係」1件のみであった。中村はダンスを履修した大学生が将来教職に就いた場合、創作ダンスを教えたいか現代的なリズムのダンスを教えたいと思うかは、それぞれの種目で踊る楽しさを味わえたかどうかによることと、特に創作ダンスについては、その教育効果を理解できたかどうかに影響を受けることを明らかにしている¹²⁾。

そこで、保健体育科の教職課程を有する大学においてダンス指導法の授業を充実するための研究を行うことは、おおいに価値があると考えられる。またダンス指導法履修の前後において、学生がダンスやダンス指導に対して抱くイメージの変容を捉えることにより、ダンス指導についての理解や意識の変容を探ることができると考える。さらにダンスが得意な学生と得意でない学生に同様のダンス指導法の授業を実施し、両者のダンスやダンス指導に対するイメージの変容にどのよう

な差があるのかを検討することにより学生の実態を考慮した授業内容・方法の開発に向けて貴重な示唆を得ることができると考える。

2. 本研究の目的

本研究は、中学校や高等学校の現場で活用できるダンス指導力をつけるダンス指導法の授業試案を作成し、履修した学生の意識の変容を分析することにより、ダンス指導法の授業内容や方法の開発に向けて示唆を得ることを目的とした。

II. 方 法

1. 対 象

- ① 対象とした授業の目的：「学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点を当て、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。」
- ② 対象学生・スポーツ科学専攻 3年生「ダンスメソッド」受講生（2013後期）59人（以後、ス群）
・舞踊学専攻 2年生「学齢期指導法」受講生（2014前期）73人（以後、舞群）

2. ダンス指導法授業試案の作成

授業試案では、先行研究により成果が実証されてきたダンスの課題解決型の学習指導方法・内容³⁾⁴⁾を選択した。同方法・同内容は、中学校男女ダンス必修化の前後から初めてダンス指導に取り組んだ男性教員らも、指導の対象が男女別習授業・共習授業に関わらず成果を上げたとしている¹⁾²⁾²¹⁾²²⁾ため、学生が卒業後にすぐ取り組める学習指導内容・方法としてふさわしいと判断した。また、学生自身の踊る・作る力をつけると同時にダンスに関する指導力を高める実習や理論を組み込んだ。教科書としては、中学校ダンス必修化に向けて近年発刊された教員向けのダンス指導書籍を比較した中で、実際に現場の教員が執筆した学習指導案の量が多く、創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスが網羅され、易しい理論が含まれ基本的な単元の実際の指導映像もついている書籍¹⁴⁾を選定した。15回の内容は、実際に初めてダンスを学習する中学生・高校生を対象とした創作ダンスを中心とする6時間の単元を最初に配置し、中盤は、現代的なリズムの題材、フォークダンスの題材、デッサン力を高める題材を入れた。終盤では、学生全員が教科書から題材を選択し、教師役になる指導法実習を行った。教師が生徒に題材を示して動きを引き出す部分の指導を8

表2 ダンス指導法（ダンスメソッド）15回の単元計画（スポーツ科学専攻 2013）

回	授業前半 中学生・高校生を対象とした学習内容	授業後半 ダンス学習指導法の内容
1	オリテ（中高生用）現代的なリズム 8844221111による導入	オリエンテーション（大学生向け）
2	創作【ものを手がかりに】しんぶんし	ひと流れとは何か
3	創作【対極の動きの連続を手がかりに】走るー止まる	ダンスの話し合い…リーダーに続けとはなにか
4	創作【群（集団）の動きを手がかりに】集まるーとび散る	ブレインストーミングとは何か
5	創作【身近な生活や日常動作を手がかりに】スポーツいろいろ	ミニ発表会の運営
6	フォークダンス（パティ・ケーキ・ポルカ）ダンスウォームアップのいろいろ	フォークダンスの言葉かけ実習 WUの作り方
7	現代的なリズム パーケンダンスでhiphop風に	課題解決型の学習とは
8	現代的なリズム ロックのリズムで動く止まる	発表、見せ合いのいろいろ
9	冬のデッサン フォークダンス（パティ・ケーキ・ポルカ）	10秒デッサンの引き出し方
10	デッサンから作品作り ディズニーランドに行こう！	簡単なクラス作品作りの指導法実習
11	フォークダンス（ドードレブスカ・ポルカ）	太鼓のたたき方実習
12	創作【対極の動きの連続】指導6題材の選択	指導法実習指導案の検討
13	指導法実習1 授業9分間分のマイクロティーチング	
14	指導法実習2 授業9分間分のマイクロティーチング	
15	指導法実習3 授業9分間分のマイクロティーチング	ダンス授業指導法・評価とまとめ

表3 ダンス指導法(学齢期指導法)15回の単元計画(舞踊学専攻 2014)

回	授業前半 中学生・高校生を対象とした学習内容	授業後半 ダンス学習指導法の内容
1	オリテ(中高生用) 現代的なリズム 8844221111による導入	オリエンテーション(大学生向け)
2	創作【ものを手がかりに】しんぶんし	ひと流れを引き出す指導法実習
3	創作【対極の動きの連続を手がかりに】走るー止まる	ダンスウォームアップの示範実習
4	創作【群(集団)の動きを手がかりに】集まるーとび散る	生徒を惹きつける太鼓のたたき方実習
5	創作【身近な生活や日常動作を手がかりに】スポーツいろいろ	ミニ発表会の運営
6	現代的なリズム パーケングッズでhiphop風に	課題解決型の学習とは
7	現代的なリズム ロックのリズムで動く止まる	発表、見せ合いのいろいろ
8	10秒デッサン 夏のデッサン デッサンウォームアップ	作品への言葉かけ実習
9	デッサンから作品作り ディズニーランドに行こう!	簡単なクラス作品作りの指導法実習
10	フォークダンス(ドードレブスカ・ポルカ、ヒンキ・ディンキ・バーリーブー)	フォークダンスの言葉かけ実習 WUに応用
11	創作【対極の動きの連続】指導6題材の選択 指導案作成	
12	指導法実習指導案の検討と、リハーサル	
13	指導法実習1 授業8分間分のマイクロティーチング	
14	指導法実習2 授業8分間分のマイクロティーチング	
15	指導法実習3 授業8分間分のマイクロティーチング	ダンス授業指導法・評価とまとめ

～9分間ほど行うマイクロティーチングとし、受講者を4つのグループに分けて体育館の4カ所で生徒役の学生に対して順に指導を行わせた。

1回の授業は、前半で中学生・高校生を対象とした学習1時間分を体験し、後半にその解説又は、具体的な学習指導のポイントをつかむ実習を入れた。両専攻に対してほぼ共通の内容でカリキュラムを組み立てた。しかし舞群では学生自身のダンスを作る・踊る力が高いため、ス群に比較して毎時間の学習の前半で学生自身の動きを高める手立てを取る時間が少なくなると予測できる。そこで舞群では単元の早めの段階から毎時間の学習の後半で示範やリズム太鼓のたたき方、言葉かけの実習を取り入れた。ス群においては、自信を持って取り組めるように、ダンスを作る・踊る力がついてくると予想される単元の中盤以降で実習を取り入れた。

3. 調査と分析

両群の学生の、ダンス経験やダンスに関する知識の違いをまず把握し、履修を通して学生の持つダンスやダンス指導に対するイメージ(以後、ダンスイメージ)がどのように変容したかを検証することが、汎用性のある指導法を検討する上で、必要であると考え、①②の調査を行った。また、学生が授業をどう評価するか

について履修の進行に従って検証する必要があると考え、③の調査を行った。

① 大学入学前のダンス経験・知っているダンスの種類

1時間目に実施した。「これまでにダンスの授業を受けたことがありますか?またどんなダンスを踊ったことがありますか?」「知っているダンスの種類をできるだけたくさん書いて下さい」という設問とし、ダンスとして学生が認識し思い出せる内容を調査するために選択肢ではなく自由記述で調査した。曲名や行事名などが記述されることも予測されたが、内容を読み取って種類をカウントした。ス群と舞群を対応のないt検定を用いて比較した。

② ダンスイメージ語尺度評価(表現形式、運動の質、運動強度、性差意識、志向性、教育への意識)

単元の1時間目に履修前調査、最終時間に履修後調査として実施した。先行研究¹³⁾に基づいた40項目に、教育に対する意識などを加えて43項目を設定した。先行研究では、40項目を5つの要因に分けて分析している。要因「表現形式」はダンスの幅の広がり、理解を捉える事ができる。「運動の質」はダンスの持つ運動の性質の広がり、「運動強度」はダンスの運動の強さを、「志向性」はダンスの好き嫌いを、「性差意識」はダンスが男女どちらに親和性があるかを

表4 形成的授業評価 調査項目

調査項目 (回答 はい3点 どちらとも言えない2点 いいえ1点)	分類
① 楽しかったですか	意欲・関心
② 精一杯全力を尽くして運動することができましたか	意欲・関心
③ 深く心に残ることや感動することがありましたか	成果
④ 今までできなかったことができるようになりましたか	成果
⑤ 「あわかった！」とか「あっそうか」とおもうことがありましたか	成果
⑥ 自分から進んで学習することができましたか	学び方
⑦ 自分の目当てに向かって何回も練習できましたか	学び方
⑧ 友達とお互いに教えあったり助けたりしましたか	協力
⑨ 友達と協力して仲良く学習できましたか	協力

それぞれ捉えることができる。本研究では「ダンスは体育の中で重要な領域である」「中学生・高校生に体育でダンスを指導できる」を加え、これを「教育への意識」要因として分析した。また、項目「ダンスが好きである」を「志向性」要因に加え、端的にその変化を検討することにした。

5件法の順序尺度を得点とみなして分析した。調査日のどちらかを欠席した学生の調査を除き、履修前後の比較においては対応のあるt検定を用い、また、ス群と舞群の比較においては対応のないt検定を用いて統計処理を行った。

③ 形成的授業評価(意欲関心, 成果, 学び方, 協力)

学習カードにより、高橋他の先行研究²³⁾に基づいて毎時間学習記録カードに記入させて9項目の調査を行った(表4)。「はい」に3点「どちらとも言えない」に2点「いいえ」に1点をあてて、4つの分類「意欲・関心」「成果」「学び方」「協力」に従って平均点数を出した。

④ 自由記述(ダンスを教える場合に大事なこと, 指導法実習の感想, 授業全体の感想)

②③に加え、より具体的に学生のダンス指導への意識を検討するため、「ダンスを教える場合にどんなことが大事だと思いますか?」「15回の授業を振り返って」を履修後調査として行った。また、学習カードの指導法実習の日の感想についても分析対象とした。

III. 結果及び考察

1. ダンスの経験及び知っているダンスの種類

ダンスの経験については両専攻学生ともに、小・中・高等学校の授業や行事で体験した「創作ダンス」、体育

祭の「ソーラン節」、行事での「フォークダンス」などをあげていた。舞群は、加えて個人的な習い事と学校でのダンス関連部活動が上がっている。1人が経験したとして記述したダンスの種類数の平均はス群1.23、舞群4.69と有意な差があった。知っているダンスの種類についてもス群3.98、舞群12.98と有意な差があった。

表5 入学前に経験したダンスと知っているダンスの種類(数)

	入学前の経験数		知っているダンス数	
	スポーツ専攻	ダンス専攻	スポーツ専攻	ダンス専攻
平均	1.23	4.69	3.98	12.98
SD	0.75	1.70	3.06	4.76
最大値	4	9	14	23
最小値	0	2	0	4

t値 13.21 p*** t値 11.22 p***

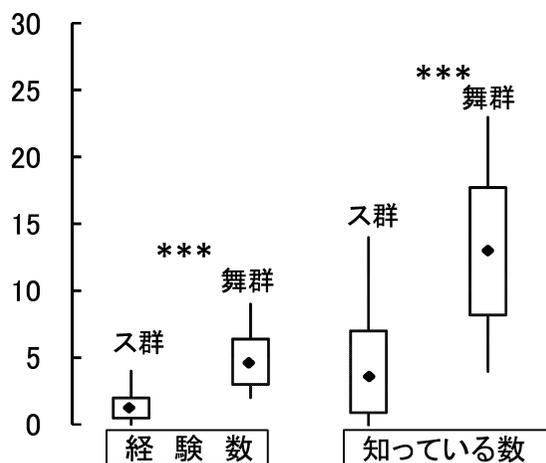


図1 入学前に経験したダンスと知っているダンスの種類(数)

両群には、ダンスの経験、知識の背景に差があることが読み取れた。

2. 所属専攻によるダンスイメージの比較

ス群と舞群の履修前調査におけるダンスイメージを比較するために、両群の調査回答の平均点を要因ごとに群の得点の高い項目から順に整理した(表6)。5件法によるイメージ得点は「5:思う～1:思わない」である。3が中間的な評価であるため、3より高評価であるほどその項目のイメージを肯定しており、3よりも低いほどそのイメージを否定していると考えられる。

表現形式要因の中では「表現的な」「創造的な」「自由な」「個性的な」「現代的な」等が両群ともに高得点であり、舞群ではそれに加えて「芸術的な」が高得点で、ス群より有意に高い。運動の質要因では、「リズムカル」「美的」「躍動的」が共通に高得点であるが、舞群ではそれに加えて「開放的」「力強い」「健康的な」等が4点以上となっている。「開放的」「健康的」「繊細な」「曲線的」では舞群が有意に高く、「リズムカル」「明るい」では逆にス群が高い得点となっている。運動強度要因では、「全身の」「運動量のある」が両群ともに共通に高得点である。「運動量のある」は舞群が有意に高い。また「ゆったりした」「静かな」と、運動の速さや力強さが少ないと予測される項目は舞群が有意に高い。運動難度要因では「難しい」「複雑」が両群ともに4点前後である。一方「おおざっぱな」「簡単な」は低得点である。低得点ではあるが舞群とス群に有意な差があり、ス群の方がさらに低得点である。性差意識要因では、ス群の方が舞群よりもダンスを「女性的」と捉え、逆に「男性的」は舞群がス群よりも有意に高い得点である。指向性要因では、「楽しい」「カッコいい」は両群ともに高得点であるが「楽しい」については舞群の方が有意に高い。「魅力的な」「踊りたくなる」「好き」は舞群では高得点であり、ス群はみな3点台で有意な差があった。教育への意識では「ダンスは体育の中で重要な領域である」は両群ともに3点台後半であり「中学生・高校生に体育でダンスを指導できる」は両群ともに3点を切り、両群に差は見られなかった。

ここで、履修前の両群の特徴を大まかに述べると次のようになる。

表現形式への印象や理解においては大きな差はないが、舞群の方がダンスを芸術的と捉えている。運動の質から見ると、舞群の方がス群よりダンスに多様な性

質を見いだしている。運動強度について、舞群の方が運動量のあることをより認識し、また強度の弱い動きにも目を向けている。運動の難度については、両群とも難しい、複雑な面があると思っている。性差意識では、ス群の方が女性的であるととらえ、舞群の方が女性への偏りが少ない。ダンスへの志向性は、舞群の方がス群よりも高い。ダンス教育については、その重要性を両群ともある程度認識しているが指導する自信は両群ともに持っていない状況である。

3. ダンス指導法履修前後のダンスイメージの比較

履修前後のダンスイメージ調査結果の比較を、専攻ごとに表7に示した。得点に有意差のあった項目の数、すなわちイメージが変容したといえる項目は、43項目の内、ス群24項目、舞群7項目であった。ス群において半数以上の項目で変容が見られた結果となった。

ス群において、表現形式要因で有意に高くなった項目は「自由な」「現代的な」「民族的な」「競争的な」であり、表現形式として認識度の高くなったイメージが増え、理解が広がったと言える。運動の質要因では「明るい」「開放的」「力強い」「健康的」「曲線的」が有意に高くなり、ダンスの動きの性質として認識度の高くなったイメージが増え、理解が広がったと言える。運動強度では「全身の」「運動量のある」「激しい」が有意に高くなり、最初に思っていたよりも運動強度の高いことに気づいたと言える。また「ゆったりした」動きへの認識も高くなった。運動難度では「おおざっぱ」「簡単」が有意に高くなり、ダンスに対して難しいという感じ方が減少した様子がわかる。性差意識は「中性的」「男性的」イメージが有意に高くなった。志向性要因では「楽しい」「魅力的な」「踊りたくなる」「好き」という肯定的なイメージが有意に高くなり「つまらない」という否定的なイメージが有意に低くなった。ダンスへの志向性が高まったといえる。「ダンスは体育の中で重要な領域である」「中学生・高校生に体育でダンスを指導できる」という教育に関する項目は2つとも有意に高まった。ス群にとって、本研究の授業試案によるダンス学習体験はダンスのイメージを広げ、ダンスへの志向性や教育への意識を高め指導への自信を向上させたと言える。

一方、舞群では運動の質と志向性要因に関しては有意な差がある項目はなかった。既にこの授業を履修する以前から舞踊運動における多様な質への理解とダン

表6 履修前のダンスイメージ 専攻による比較

要因	項目	スポーツ (n=43)		舞踊 (n=53)		t 値	p 値
		平均値	SD	平均値	SD		
表現形式	表現的な	4.91	0.29	4.62	0.69	-2.73	**
	創造的な	4.47	0.59	4.58	0.57	0.93	
	自由な	4.28	0.73	4.19	0.77	-0.56	
	個性的な	4.26	1.03	4.42	0.69	0.91	
	現代的な	4.02	0.80	4.11	0.75	0.57	
	芸術的な	3.91	0.89	4.38	0.81	2.69	**
	民族的な	3.12	0.79	3.40	0.97	1.53	
	形式的な	2.91	0.81	3.32	0.85	2.42	*
運動の質	競争的な	2.19	0.88	2.98	1.07	3.93	***
	リズムカルな	4.91	0.29	4.72	0.57	-2.11	*
	美的な	4.42	0.73	4.38	0.66	-0.29	
	明るい	4.37	0.72	3.94	0.95	-2.51	*
	躍動的な	4.09	0.95	4.23	0.78	0.76	
	柔らかい	3.95	0.84	3.81	0.92	-0.78	
	セクシーな	3.84	0.90	3.79	0.97	-0.23	
	開放的な	3.79	0.86	4.36	0.76	3.43	***
	力強い	3.72	0.85	4.02	0.82	1.74	
	健康的な	3.63	0.98	4.13	0.90	2.63	*
運動強度	繊細な	3.47	0.88	3.92	0.81	2.66	**
	曲線的な	3.33	0.81	3.87	0.79	3.32	**
	全身の	4.30	1.04	4.40	0.77	0.55	
	運動量のある	4.21	0.83	4.66	0.52	3.10	**
	激しい	3.72	0.73	3.79	0.84	0.44	
	速い	3.56	0.88	3.68	0.80	0.70	
運動難度	ゆったりした	3.05	0.82	3.45	0.91	2.30	*
	静かな	2.72	0.91	3.17	0.96	2.34	*
	むずかしい	3.98	1.22	3.94	0.93	-0.15	
	複雑な	3.95	1.02	4.00	0.90	0.24	
性差意識	大ざっぱな	2.23	0.87	2.62	0.97	2.06	*
	簡単な	2.12	1.02	2.58	1.01	2.23	*
	女性的な	3.93	1.06	3.45	0.93	-2.35	*
志向性	中性的な (男女の)	3.00	0.94	3.23	0.72	1.33	
	男性的な(男らしい)	2.42	0.82	3.13	0.79	4.33	***
	楽しい	4.33	0.81	4.79	0.49	3.32	**
	かっこいい	4.26	0.88	4.06	0.86	-1.12	
	魅力的な	3.86	0.86	4.43	0.72	3.55	***
	踊りたくなる	3.67	1.04	4.72	0.53	5.97	***
	好き	3.21	1.17	4.79	0.45	8.40	***
	恥ずかしい	2.79	0.99	2.40	1.04	-1.88	
教育	不格好な	2.05	0.84	2.43	1.01	2.01	*
	つまらない	2.00	1.00	1.64	0.83	-1.92	
教育	体育の中で重要	3.77	0.84	3.91	0.90	0.77	
	教えられる	2.56	0.96	2.91	1.15	1.59	

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

表7 単元履修前後のダンスイメージの変化

要因	項目	スポーツ科学専攻学生 (n=43)					舞踊学専攻学生 (n=53)						
		履修前		履修後		t 値	p 値	履修前		履修後		t 値	p 値
		平均値	SD	平均値	SD			平均値	SD	平均値	SD		
表現形式	表現的な	4.91	0.29	4.79	0.67	1.09		4.62	0.69	4.50	0.75	0.83	
	創造的な	4.47	0.59	4.65	0.61	-1.75		4.58	0.57	4.50	0.64	0.73	
	自由な	4.28	0.73	4.84	0.37	-4.29	***	4.19	0.77	4.44	0.70	-2.10	*
	個性的な	4.24	1.03	4.60	0.70	-1.75		4.42	0.69	4.51	0.67	-0.93	
	現代的な	4.02	0.80	4.05	0.87	-2.73	**	4.11	0.75	4.25	0.78	-1.12	
	芸術的な	3.91	0.89	4.44	0.77	-0.86		4.38	0.81	4.25	0.83	0.96	
	民族的な	3.12	0.79	3.49	0.98	-2.15	*	3.40	0.97	3.42	0.93	-0.13	
	形式的な	2.91	0.81	3.09	1.00	-0.98		3.32	0.85	3.55	0.93	-1.77	
	競争的な	2.19	0.88	2.63	1.11	-2.75	**	2.98	1.07	3.17	1.16	-1.07	
運動の質	リズムカルな	4.91	0.29	4.91	0.29	0.00		4.72	0.57	4.55	0.67	1.84	
	美的な	4.42	0.73	4.37	0.76	0.42		4.38	0.66	4.28	0.74	0.87	
	明るい	4.37	0.72	4.77	0.48	-2.96	**	3.94	0.95	3.83	0.99	0.74	
	躍動的な	4.09	0.95	4.23	0.97	-0.92		4.23	0.78	4.28	0.77	-0.47	
	柔らかい	3.95	0.84	3.93	0.94	0.17		3.81	0.92	3.77	0.97	0.30	
	セクシーな	3.84	0.90	3.93	0.91	-0.52		3.79	0.97	3.94	1.06	-1.00	
	開放的な	3.79	0.86	4.28	0.80	-3.04	**	4.36	0.76	4.43	0.64	-0.70	
	力強い	3.72	0.85	4.05	0.72	-2.64	*	4.02	0.82	3.96	0.76	0.44	
	健康的な	3.63	0.98	4.21	0.97	-3.62	***	4.13	0.90	4.09	0.88	0.26	
繊細な	3.47	0.88	3.60	0.88	-0.86		3.92	0.81	4.02	0.87	-0.80		
曲線的な	3.33	0.81	3.88	0.98	-3.72	***	3.87	0.79	3.94	0.82	-0.68		
運動強度	全身の	4.30	1.04	4.65	0.61	-3.18	**	4.40	0.77	4.21	0.78	1.94	
	運動量のある	4.21	0.83	4.67	0.52	-3.57	***	4.66	0.52	4.38	0.71	3.43	**
	激しい	3.72	0.73	4.12	0.85	-2.28	*	3.79	0.84	4.02	0.93	-1.47	
	速い	3.56	0.88	3.84	0.81	-1.86		3.68	0.80	3.70	0.75	-0.15	
	ゆったりした	3.05	0.82	3.44	0.91	-2.37	*	3.45	0.91	3.66	0.90	-1.59	
	静かな	2.72	0.91	2.77	1.19	-0.28		3.17	0.96	3.47	1.12	-2.06	*
運動難度	むずかしい	3.98	1.22	3.74	0.90	1.09		3.94	0.93	3.98	0.93	-0.26	
	複雑な	3.95	1.02	3.70	0.99	1.26		4.00	0.90	4.04	0.85	-0.26	
	大ざっぱな	2.23	0.87	2.98	1.08	-5.12	***	2.65	0.98	2.84	1.08	-1.17	
	簡単な	2.12	1.02	3.33	1.16	-6.15	***	2.58	1.01	3.23	1.03	-4.14	***
性差意識	女性的な	3.93	1.06	4.00	1.00	-0.42		3.45	0.93	3.60	1.08	-1.09	
	中性的な(男女の)	2.98	0.94	3.78	0.96	-4.19	***	3.23	0.72	3.55	0.93	-2.44	*
	男性的な(男らしい)	2.42	0.82	2.98	1.03	-3.40	**	3.13	0.79	3.43	1.01	-2.26	*
志向性	楽しい	4.33	0.81	4.79	0.67	-4.15	***	4.79	0.49	4.74	0.56	0.55	
	かっこいい	4.26	0.88	4.26	0.82	0.00		4.06	0.86	4.21	0.91	-1.02	
	魅力的な	3.86	0.86	4.49	0.70	-5.04	***	4.46	0.70	4.48	0.64	-0.17	
	踊りたくなる	3.67	1.04	4.44	0.93	-5.46	***	4.72	0.53	4.58	0.69	1.48	
	好き	3.21	1.18	4.17	0.99	-7.00	***	4.79	0.45	4.72	0.72	1.16	
	恥ずかしい	2.79	0.99	3.05	1.21	-1.34		2.40	1.04	2.64	1.18	-1.32	
	不格好な	2.05	0.85	2.33	1.14	-1.45		2.46	1.00	2.71	1.14	-1.41	
	つまらない	2.00	1.00	1.70	0.91	2.47	*	1.64	0.83	1.89	1.12	-1.50	
教育	体育の中で重要	3.80	0.84	4.41	0.67	-4.53	***	3.91	0.90	4.08	0.90	-1.42	
	教えられる	2.57	0.97	3.45	0.89	-5.61	***	2.91	1.15	3.91	0.97	-6.10	***

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

スへの志向性は高く、変化が見られなかったと推察できる。有意に高くなったのは「自由な」「運動量のある」「静かな」「簡単な」「中性的な」「男性的な」「中学生・高校生にダンスを教えられる」である。自由で運動量があり簡単というイメージは、中学生・高校生の学習指導としてのダンスの特徴を受けとっていると考えられる。また、ダンスを指導する対象が女子だけに限られないことを考えると、男性的、中性的というイメージの高まりも成果のひとつであると考えられる。これらはス群でも共通に高くなった項目である。

ダンスに対する志向性の代表項目として「好き」、教育への意識として「中学生・高校生に体育でダンスを指導できる」「ダンスは体育の中で重要な領域である」の3項目の比較を図2に示した。

4. 形成的授業評価

本研究における授業の内、実技の内容が入っていた時間を中心に学生の形成的な授業評価を検討した(表8, 9)。

図3, 4に示した通り、両群ともに似たようなプロフィールで全体として単元の後半になるにつれて得点が高くなっていく。いずれも早い段階から、楽しかっ

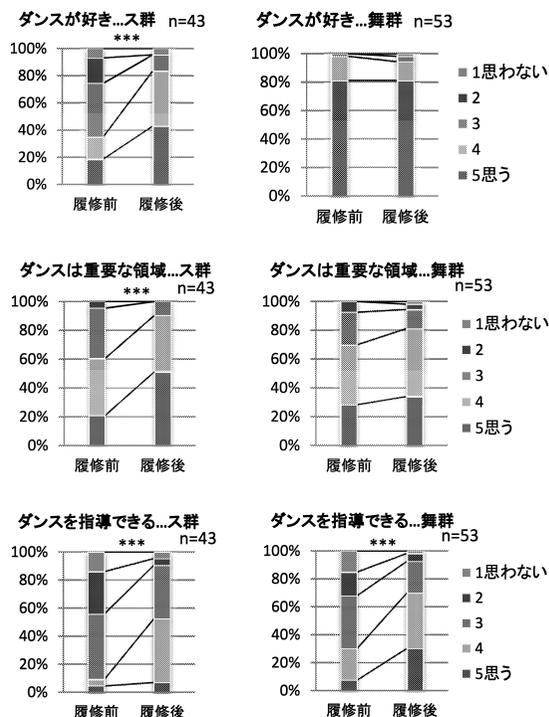


図2 ダンスへの志向及びダンス教育への意識の変容

表8 履修した題材についての形成的授業評価 スポーツ科学専攻 (n=59)

時間題材 次元	得点平均 評価 ※評価は5段階												
	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目	9時間目	10時間目	11時間目	14時間目	
	8844	新聞	走止	集散	スポーツ	フォウU	バーケン	ロック	冬フォーク	ディズニー	フォーク太鼓	指導法	
意欲・関心	2.97 4	2.96 4	2.97 4	2.89 4	2.97 4	2.99 4	2.91 4	2.97 4	2.97 4	2.96 4	2.96 4	2.93 4	
成果	2.33 3	2.62 4	2.70 4	2.62 5	2.86 5	2.81 5	2.70 5	2.77 5	2.83 5	2.78 5	2.80 5	2.80 5	
学び方	2.68 4	2.80 5	2.87 5	2.84 5	2.90 5	2.85 5	2.84 5	2.96 5	2.93 5	2.87 5	2.91 5	2.89 5	
協力	2.86 5	2.97 5	2.92 5	2.97 5	2.96 5	2.99 5	2.97 5	3.00 5	2.98 5	2.99 5	2.94 5	2.94 5	
総平均	2.67 4	2.81 5	2.85 5	2.81 5	2.92 5	2.90 5	2.84 5	2.91 5	2.91 5	2.89 5	2.89 5	2.88 5	

表9 履修した題材についての形成的授業評価 舞踊学専攻 (n=73)

時間題材 次元	得点平均 評価 ※評価は5段階												
	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目	9時間目	10時間目	14時間目		
	8844	新聞	走止	集散	スポーツ	バーケン	ロック	夏	ディズニー	フォーク	指導法		
意欲・関心	2.93 4	2.91 4	2.88 4	2.93 4	2.94 4	2.92 4	2.94 4	2.92 4	2.98 4	2.96 4	2.96 4		
成果	2.42 3	2.68 4	2.60 4	2.77 5	2.74 5	2.77 5	2.73 5	2.75 5	2.84 5	2.91 5	2.93 5		
学び方	2.69 4	2.84 5	2.83 5	2.88 5	2.92 5	2.90 5	2.84 5	2.90 5	2.95 5	2.91 5	2.91 5		
協力	2.92 5	2.95 5	2.98 5	2.95 5	3.00 5	2.96 5	2.95 5	2.96 5	3.00 5	2.99 5	2.99 5		
総平均	2.70 4	2.83 5	2.80 5	2.87 5	2.88 5	2.88 5	2.85 5	2.87 5	2.93 5	2.94 5	2.94 5		

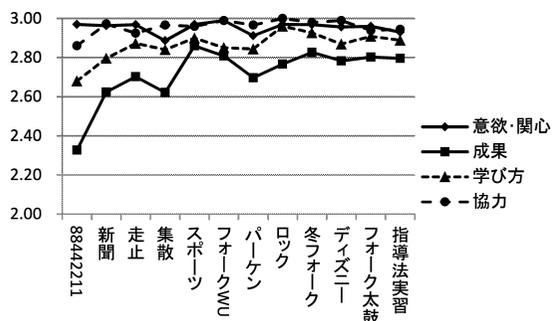


図3 履修した題材についての形式的授業評価 スポーツ科学専攻 (n=59)

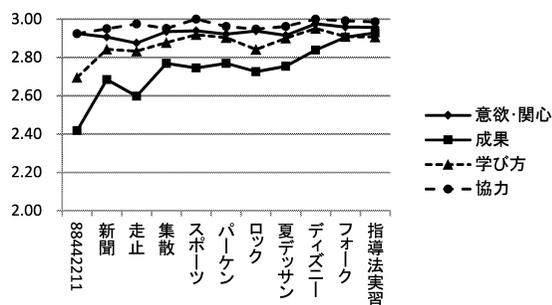


図4 履修した題材についての形式的授業評価 舞踊学専攻 (n=73)

た、全力を尽くしたといった意欲・関心の評価が高い。友達と助け合い協力して進めることができたという、協力面での評価も単元を通して高い。自主的な学び方ができたかという点では、2回目、3回目には向上している。

しかし、深く心に残ることや感動があったか、できなかったことができるようになったか、わかったと思うことがあったかという、成果の項目は、単元序盤でなかなか高くはなっていない様子が見られる。成果の項目で一番高い題材は、ス群で題材「スポーツ」(初めて作品発表会を行った)であり、舞群では最後の指導法実習の時間であった。

5. 学習カード及び履修後調査の自由記述

学習成果として、学生が何を意識しているのか、最終的にどのようなことをつかめたのか「中学生・高校生に体育でダンスを指導できる」という項目に注目して検討した。ダンスを指導できる自信を持つためには、ダンスの指導方法を理論的にわかっている必要がある。また技能的には、ダンスの題材について示範する自分自身の踊る力に加えて、声のかけ方、リズム太鼓のたたき方など生徒から動きを引き出す力も身につける必要がある。ここでは、典型的だと思われる事例を抽出し、どのような具体的な感想を持っているのかについて両群を比較した。履修後調査で「中学生・高校生に体育でダンスを指導できる」が4または5の学生の内、履修前調査からその項目の得点の伸びの大きい学生の中でより欠席が少ない者を各専攻2名ずつ抜き出した。また、回答が1または2の学生の内、履修前調査から下がった学生(下がった学生が1人であったス群は変化のなかった学生の中で欠席の少ない学生)を各専攻2名ずつ抜き出した。

指導する自信が向上した学生のコメントを表10にまとめた。スポーツ専攻の学生AとBは、ダンスが好きという気持ちも重要性の認識も向上している。AとBの記述においては、いずれもダンスを教える場合の要点を捉え、特に実習については今後の自分の課題も含めて内省的に書かれている。舞踊専攻のCとDはダンスが好きである所からのスタートであり、記述には、自分自身のつかんでいるその楽しさを伝えたいという思いが述べられ指導技術についても記載があり、授業の中でダンスの重要性やダンスの指導者としての意識や自信が高まってきた様子が読み取れる。

表11に指導する自信が低い学生のコメントを見ると、ス群の学生EとFは、ダンスを教える場合に大事だと思うことについて具体的な記述が読み取れるが、指導法実習では自分の思ったようにいかなかったということを感じている様子がわかる。2人とも保健体育科の中でダンスは重要な領域であるという認識は高い。舞群の学生GとHはダンスが好きなことは事前事後ともに変わらないが、教えられる自信は低くなった。指導方法の理解については、文面に具体的には表現されていなかった。

ス群は、教えられるという自信が高くなった学生も低いままの学生も、ダンスの重要性を認識しダンスを教える場合の要点や具体的な指導法を理解して記述できるようになっている。もともと踊る力がある舞踊学専攻の学生で、教えられる自信ができた学生は指導方法の理解も見られダンスの楽しさを授業で伝えたいと考えているが、履修後も自信の無い学生については具体的な原因や状況を推察することはできなかった。

表10 履修後に「中学生・高校生にダンスを指導できる」の得点が向上した学生のコメント

	履修前→後	履修後のコメント ①ダンスを教える場合に大事だと思うこと ②指導法実習の感想 ③授業全体の感想	
ス学生 A	好き	3→5	①自分が一番動く、笑顔、何でもあり！、生徒がなるほど！と思える単語を言ったり動いてみたりする。②多分あんなにスムーズに授業は進められないと思う。ノリがよければよいというものではないので、時には先生として注意すべき。又、ひと流れに対しての説明とその運動量があるともっとよかった。③正直、最初の頃はこの授業はあまり好きではありませんでした。でも回数を増やすことで、ノリノリに動けたり、皆で協力して動けることを体感して、とても楽しかったし、自分が教員になった時はこんなテンションと流れて進んで行くとよいとわかった。
	重要	4→5	
	教えられる	3→5	
ス学生 B	好き	2→5	①自分自身が楽しみながら恥ずかしがらずに踊ることだと思います。たとえ生徒が少しサボっていてもあきらめないでハキハキした姿を見せればのってくると思いました。②太鼓を上手く利用できませんでした。又生徒の心をずっとつかんでおくと言うことの難しさを知りました。オノマトベも調べていても思い出せなかったりして同じ言葉を何回も使っていました。教材研究をもっとしなくてはならなかったと思いました。③いろいろな踊り、動きを学べて教育実習でダンスがあたっても大丈夫になった気がします。毎回楽しく踊れたのは先生の明るさ、指導内容、選択している曲によるものだと思います。
	重要	4→5	
	教えられる	1→4	
舞学生 C	好き	5→5	①ダンスの楽しさや面白さ、いろんな事を表現できるということを伝えるのが大事だと思います。②先生になって生徒に伝えるのはとても難しいと感じました。自分も生徒と一緒に動いて楽しく授業ができました。ひとり一人個性があっていろんな先生がいて楽しい授業を受けることができました。友達からも学べることもあり勉強になりました。③1限で大変でしたが、授業が楽しかったので授業が終わる頃にはテンションが上がっていました。私もこんな授業作りができるようにがんばって行きたいです。
	重要	4→5	
	教えられる	3→5	
舞学生 D	好き	5→5	①楽しいと言うことが大前提。ひと流れを意識するけどあまり考えすぎないことが大事。②一つ一つの課題を何分くらいやるかを考えるのが難しかった。テンポよくやるとみんなあきずについてきてくれる。太鼓の合図が結構大切。③いろいろな題材でダンスをして、おもしろかったし、教えることを意識できたので勉強になった。
	重要	3→4	
	教えられる	2→5	

表11 履修後に「中学生・高校生にダンスを指導できる」の得点が低い学生のコメント

	履修前→後	履修後のコメント ①ダンスを教える場合に大事だと思うこと ②指導法実習の感想 ③授業全体の感想	
ス学生 E	好き	5→5	①先生も一緒になって踊ること、声をかけあってやること、全身を使って踊ること。②みんなを指導するのが難しかったのですが、みんなしっかり反応してくれたので良かった。③たくさん体を動かして、グループで協力し合いながらできたので良かったです。たくさんダンスを学べたので、とても良かったです。
	重要	5→5	
	教えられる	3→2	
ス学生 F	好き	3→5	①たくさんほめてフィードバックすること。生徒のいろいろなアイデアを引き出して広げてあげること、個性を大切にしておけること。汗をかくくらい動ける内容にすること。②きちんと準備していたつもりだったけど頭から飛んで行ってしまった。笑顔でやれなかったしフィードバックもあまりできなかった。③元々ダンスは好きだったけど更に好きになりました。どう指導したらよいかなどをよくわかることができて良かったです。ダンスを中学生高校生に教えることはとても大変だと思うけどこの授業を受けたおかげで少しできそうだなと思えました。楽しかったです。
	重要	5→5	
	教えられる	2→2	
舞学生 G	好き	4→4	①楽しんでできることが大事。アドバイスとかをしっかり。②声を出して動く楽しいです。先生役の人と一緒に混ざって動いてくれるとやりやすいです。板書用紙に書いてきた画用紙が凝っていて面白かった。③短い時間の中で発表までしたから大変だった。
	重要	3→2	
	教えられる	2→1	
舞学生 H	好き	5→5	①アドバイスを的確にする。②先生をやってみて喉がすごく痛くなった。でもみんなやることをやってくれたのでよかった。③朝つらかったけど中学生と違って若いなと思った。
	重要	3→4	
	教えられる	4→2	

IV. 結 論

本研究では、中学校や高等学校の現場で活用できるダンス指導力をつけるダンス指導法の授業試案を作成し、履修した学生の意識の変容を分析し、その成果の検討を行った。以下の点が明らかになり、大学のダンス指導法の授業内容と方法についての示唆を得た。

1. 明らかになったこと

- 1) 学生自身の踊る・作る力をつけると同時にダンス指導者として必要な指導力高める実習や理論を組み込んだダンス指導法授業により、ダンスの経験と志向性の高い舞踊学専攻学生もスポーツ科学専攻学生も、自由で運動量があり簡単に女子だけでなく男子も学習を行うという、中学生・高校生の学習としてのダンスの認識が深まった。
- 2) ダンスを中学生・高校生に教えられるという自信はスポーツ科学専攻学生も舞踊学専攻学生も有意に高くなり、成果があった。
- 3) この授業試案は、楽しく意欲を持って仲間と協力して取り組み自主的な活動ができるものであったが、発見や感動やできないことができたという学習成果に関する評価は、単元序盤ではなかなか高まらなかった。
- 4) スポーツ科学専攻学生の方が舞踊学専攻学生と比較して大きな変化が見られた。ダンスへの理解が深まるとともに、ダンスへの志向性が大きく高まった。

2. 指導内容・方法修正への示唆

学生の捉える成果が、踊る力の向上とダンス指導力の向上と両面あることを意識して授業内容の再検討を行う。特に、舞踊学専攻の学生にはダンス学習指導としてのポイントを明確に伝える工夫を行い、スポーツ科学専攻の学生には踊る力や指導力の向上について発見や感動を与え、早い段階から学習成果を感じさせていくように授業方法やカリキュラムに修正を加えて行く。

3. 課 題

対象とした授業の履修学年の差等も考慮して、ダンス指導法の授業内容と方法を検討し、本研究の成果が他の体育系大学におけるダンス指導法授業としても活用できるように、他大学と連携した研究へとつなげていきたい。

引用文献

- 1) 木原慎介(2012)中学校1年生における初めてのダンス授業に関する実践事例研究—質的・量的評価法を用いた指導成果の検証—, 日本体育学会第63回大会 予稿集, 298.
- 2) 木原慎介(2013)初めてのダンス実践の取り組みを振り返って, 女子体育 56(12・1):22-27.
- 3) 松本千代栄, 他11名(1998), 舞踊課題と創作学習モデル—そのII—学習内容の選択とその展開—, 日本女子体育連盟紀要'98-1:1-257.
- 4) 宮本乙女(2013)生徒が楽しく探究的に取り組む「現代的なリズムのダンス」の指導法と単元の開発, お茶の水女子大学附属中学校紀要42:37-53.
- 5) 文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説保健体育編, 文部科学省, 128.
- 6) 文部省(1970)中学校指導書 保健体育編, 文部省
- 7) 文部省(1977)中学校学習指導要領, 文部省
- 8) 文部省(1989)中学校学習指導要領 中学校指導書 保健体育編, 文部省
- 9) 文部省(1998)中学校学習指導要領, ぎょうせい
- 10) 中村恭子(2009)中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容—平成19年度, 20年度, 21年度および24年度の年次推移から—, (財)日本女子体育連盟学術研究 26:14-15.
- 11) 中村恭子(2009)中学校ダンスの男女必修化の課題—中学校教員を対象とした調査に基づいて—, 順天堂スポーツ健康科学研究 1(1):27-39.
- 12) 中村恭子(2011)教員養成課程におけるダンスの学習内容・目標評価と種目採択意欲の関係, 日本体育学会大会題第62回大会予稿集, 273.
- 13) 中村恭子, 宮本乙女(2013)中学生のダンス経験とダンスイメージの変容, 舞踊教育学研究 15:13-24.
- 14) 中村恭子, 宮本乙女, 中村なおみ編集代表(2011):明日からトライ!ダンスの授業, 大修館書店, 東京. 143-206.
- 15) 中村なおみ, 宮本乙女, 中村恭子 他4名(2014), 中学・高等学校におけるダンス教育推進に向けての調査及び取り組みについての研究, 笹川スポーツ政策研究 3(1):230-239.
- 16) 日本体育学会(2010)第61回大会プログラム
- 17) 日本体育学会(2011)第62回大会プログラム
- 18) 日本体育学会(2012)第63回大会プログラム
- 19) 日本体育学会(2013)第64回大会プログラム
- 20) 日本体育学会(2014)第65回大会プログラム
- 21) 野中速也人(2014)生徒が動きたくなるダンスの授業—男性教師によるダンス授業の実践—, 女子体育 56(4・5):28-33.
- 22) 佐藤吉高(2012)心も体も拓くダンスの授業を目指して—男性の先生もできる創作ダンスの授業—, 女子体育 54(4・5):22-27.
- 23) 高橋健夫, 長谷川悦示, 浦井孝夫(2003)体育授業を形成的に評価する:体育授業を観察評価する(高橋健夫編

著), 12-15, 明和出版, 東京.

(平成26年9月12日受付)
(平成26年12月17日受理)

参考文献

- (1) 井上一男(1970)学校体育制度史 増補版, 大修館書店, 東京
- (2) 文部省(1959)中学校保健体育指導書, 文部省
- (3) 文部省(1947)学校体育指導要綱, 文部省

